



東京では、例年に比べ
少し早い梅雨入りでした。
当初は晴天が続き、今年
はカラ梅雨？かと思われま
したが、ここに来て雨量も
多く、湿気に悩まされる

毎日です。

洗濯物が乾きにくい、食中毒が心配・・・等など
少し憂鬱ですが、農作業等に関わる方達には必要な雨、
また水不足も心配・・・と何かと気掛かりですね。

あちらこちらで見かけるピンクや白、紫、青と、色
とりどりの紫陽花に心が和みます。

気候の変化に伴い、体調不良を
覚える方もいらっしゃるのでは
ないでしょうか？



無理をせず、お元気でお過ごしくださいね！

では今回も、家を建てるために必要な材料に関わる
業者さんを紹介させていただきます。

今回は**建材のサカイ**さんです。

以前は、東京都江東区に本社のある、 集成材・
木質建材の製造・加工、販売、施工を手掛ける
建材商社に勤務していました。その後退職し、在職
中に培った経験を活かし、社名を本名であるサカイ
として、新しい会社をスタートさせました。



会社員時代とは違い、社長業はもちろん
営業や経理面など、全てご自分ひとりで
こなさなければなりません。大変だけれ
ど、その分やりがいを感じていらっし
やるのではないのでしょうか。

酒井さんのモットーは、「スピーディーな対応」
お客様の要望に素早く応える為、毎日忙しく働い
ています。

そんな彼を支えているのが、奥様と可愛い2人の
お子さんたち。

休日ともなれば、ご家族でドライブを楽しんだ
り、ゴルフやバトミントンなどで汗を流して
リフレッシュ。

そして、好きなカレーライスで
スタミナアップ？



体力・気力とも万全で仕事に取り組んでいます。

酒井さんとは、商社に勤務されていた頃からの
お付き合いですので、ずいぶんと長くなりましたが、
これからも引き続き、どうぞよろしくお願
いいたします。

本田選手に学ぶ気概

「人間って、気が緩んでいないと自分では思っ
ていても、気が緩んでいるのだと思う。

だから引き締めるには、くどいほど自問自答す
るしかない！」

これは、日本中を熱気の渦に巻き込んだ、先日の
サッカーW杯・ブラジル大会への出場を決めた
アジア最終予選の直前に、本田圭佑選手が語っ
ていた言葉です。

自問自答を繰り返した本田選手は、思い切りの
いいPKで、日本チームの窮地を
救ってくれました。

常に、自分自身と戦う姿は、
力強く、とても素敵でした。



花嫁の父



6月の花嫁さんは幸せになれる・・・と言い伝えのあるジュンブライドの伝説から、この月に結婚したいと憧れる女性も多いようです。

結婚は、花婿・花嫁さんだけが幸せであればということではなく、両親はもちろん、今までお世話になった皆さんから認められ、祝福されてほしいものです。

主役はもちろん2人ですが、陰で支え、心配してくれるお父さんの存在はあまり表に出ません。

そこで今回は、そんなお父さんの気持ちに関するお話を紹介します。

～ある女性の思い出から～

彼が、結婚の許しを得るために、実家の両親を訪ねた時の話です。

雰囲気はとても和やかで、2人の結婚を祝福してくれているのは判ったけれど、彼は、肝心な「お嬢さんと結婚させて下さい！！」のようなセリフを言えないでいました。

彼は、最後までその言葉を切り出すタイミングがないまま、結局帰ることに・・・。

私は、彼を送るため先に玄関に出て彼を待ちました。しばらくして彼も玄関に出て来て、両親にペコリと頭を下げ実家を後にしました。

私は、彼を近くの駅まで送るため、並んで歩き始めました。その時彼がポツリと言ったのです。「お父さん、泣いてたよ」って。

私が先に玄関に行った時、お父さんに「〇〇ちゃんを幸せにしますから」って言ったんだ。そしたら、お父さんは俺の手を握り、うっすらと涙を浮かべながら「娘をよろしくお願いします」と言ってくれたそう。

その後しばらくして私は彼と結婚したのです。

たまに実家に帰ると、父はほとんどお酒が飲めないのに、夫と酒を飲みたがった。

あとから聞いた話だが、以前、父は親類に

「〇〇は絶対嫁には出さん！」と語っていたらしい。



しかし、父は、夫を本当の息子のようにとても可愛がってくれ、いつも褒めてくれた。

そんな父が、結婚3年目に他界。

夫は「お父さんにろくな親孝行をしてあげられなかったな・・・」と言った。

私も、父には心配ばかりかけて、親孝行らしいことをほとんどしてあげられなかった。

でも、「父は、息子と一緒にお酒を飲むことができて幸せだったのかな・・・？」

と思うことが今の私の慰めになっています。

母親とはまた違うかたちで愛情を注ぎ、見守ってくれる父親。どちらも大切な大きな存在ですね。

「編集後記」

6月の第3日曜日は父の日でしたね。父の日は、1909年、1人のアメリカ人女性が、彼女を男手ひとつで育ててくれた父親を讃え、教会の牧師さんをお願いし、父の誕生月である6月に礼拝をしてもらったことがきっかけと言われているアメリカ生まれの記念日です。母の日には、カーネーションを贈りますが、父の日は、バラを贈るそうです。

今月もお読みいただき有難うございました。ご意見・ご感想を是非お聞かせください。



編集責任者
渡辺 田鶴子